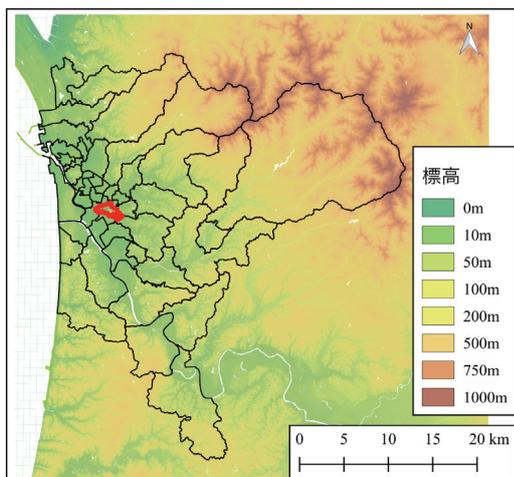


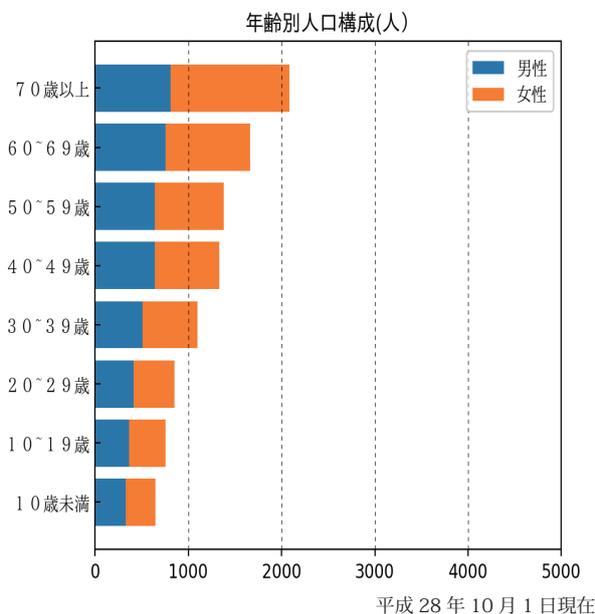
29：築山小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	10,041 人
世帯数	4,845 世帯
65 歳以上人口	3,002 人
10 歳未満人口	644 人



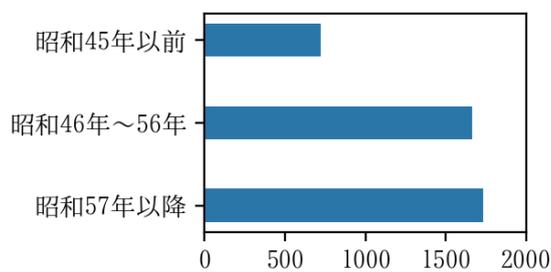
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	4119
非木造建物	439

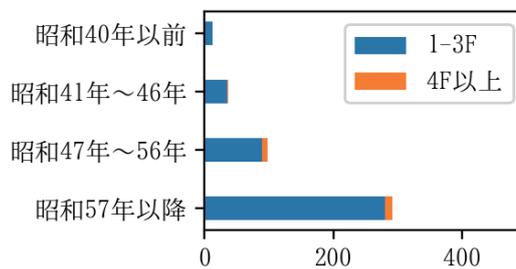
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,732
昭和46年～56年	1,663
昭和45年以前	724



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	280	12
昭和47年～56年	90	8
昭和41年～46年	35	2
昭和40年以前	12	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

秋田市中心部の南部に位置する。中央部を太平川がほぼ東西に流れており、太平川右岸の区域は全般に沖積層が堆積している。太平川左岸は金照寺山とそれに続く丘陵地となっている。南部には住宅地及び農用地が広がる平坦地となっている。1983年日本海中部地震では一部で液状化も発生した。人口、建物棟数とも学校区の西部に集中している。人口構成は、年齢者層が高いほど構成比率が高い。65歳以上の高齢者層は、全体の30%である。昭和46年以降の建築物が多い。昭和57年以降の建物は全体の44%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	旭川	猿田川	太平川
浸水面積 (%)	4.4	0.7	0.4
最大浸水深 (m)	ランク 1	—	ランク 2

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	63.6		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	10	楯山太田町、楯山金照町、楯山城南、下北手桜、松原、楯山太田沢、金照寺、城南 他
土石流危険渓流	4	太田沢、横森沢、太田町沢、金照町沢
地すべり危険箇所	1	横森
なだれ危険箇所	8	楯山太田町、楯山金照町、楯山城南町、太田沢、城南 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	14	太田沢、横森沢、太田町沢、金照町沢、松原、楯山太田沢 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 弱 (5.90)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	20	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	5.5	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	1	
最大浸水深 (m)	1.4	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	3
婦人幼児支援	2
障がい者等支援	2

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	4
こども園	1
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	2
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	102
防火水槽 (箇所)	14
消防車台数 (台)	6
消防ポンプ数 (台)	3
消防団員数 (人)	67

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	2
土砂災害	6
地震	6
津波	0
福祉避難所	1
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	6
最寄りの救急告示病院	中通総合病院
自主防災組織数	7

自然災害時の危険要素

河川の氾濫による浸水の危険性としては、雄物川の洪水がある。学校区内の丘陵地を除くほぼ全域に渡って 3m 未満の浸水となることが想定されている。これに加え、旭川、太平川および猿田川の氾濫によっても面積的には限定的ではあるが、学校区内に浸水 (0.5m 未満) が及ぶことが想定されている。

丘陵部には土砂災害が発生する危険性が指摘されており、そのうち 14 箇所 (急傾斜 10 箇所、土石流 4 箇所) が警戒区域等として指定されている。

地震時の揺れやすさは、ほぼ全域で同じであるが、南部の低平地ではやや強い揺れとなる可能性がある。液状化の危険性は高い。津波による浸水は太平川と秋田運河合流部付近の一部で発生する (浸水深さ 1.4m 以下) 可能性が想定されている。

防災上の課題と対策

1983 年日本海中部地震では地盤の液状化が太平川沿いで

発生しており、地震発生時には液状化が発生する危険性がある。学校区東部の金照寺山周辺に土砂災害危険箇所があり、避難路を選定する際にはこのような危険箇所を避けて選定することが望ましい。

築山小学校区内の避難場所および緊急時一時避難場所は6箇所指定されているが、このうち洪水時に利用できる施設は城南中学校のみである。一方、太平川右岸の学校区北部には洪水時に利用できる避難施設がない。地域住民が自主

的に町内会等を単位として水平避難と垂直避難の可能性を含めて、地区の避難計画などを検討し、避難訓練等を通じてその実効性を確認する等の行動が望まれる。

建物の密集度が高いため、火災が発生した場合に延焼しやすいと考えられる。火災の被害を最小限に押さえるには、出火を防ぐことと初期消火が重要となる。出火防止や初期消火については住民の果たす役割が大きいことから、日頃より防火/防災に関わる啓発/訓練等が望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
秋田南中学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	5,355人
秋田南中学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	654人
城南中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	4,280人
城南中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	611人
築山小学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	3,085人
築山小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	346人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
秋田市川口老人デイサービスセンター	榎山登町10番64号	018-832-3966

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

